

「すぐやる人」と「やらない人」の習慣という本からです

すぐやる人は物語を読み、やれない人は映像に頼る。

あなたは自分の直感に自信を持っていますか? 「心と直感に従う勇気を持ちなさい。それは、あなたのなりたいものが何なのか知っているものだ。それ以外は、二の次でいい」と言ったのは、あのスティーブ・ジョブズです。

私たちの毎日は選択の連続です。情報を徹底的に集めたり、思考に施行を重ねたりしても、意思決定することが難しい状況というのはよくあることです。「すぐやる人」は、とにかく直感が鋭く、チャンスを汲みわけ嗅覚を持っています。たとえば、サッカーでは得点能力に優れたストライカーは「なぜかそこにいる」ということが頻繁に起こります。インタビューなどで得点シーンを振り返るときも「そこにボールがくると思った」と、一般人からすると予想もできないような場所に出没して、ゴールを決めてしまいます。迷い、判断が1秒遅れていたらゴールはあげられなかったでしょう。まさに直感が瞬間的に働いているのです。ジョブズの例もそうですが、世界のエグゼクティブも論理的に突き詰めて考えているように見えても、最終的には自分の直感で大切なことを決めていることが多いものです。頭で考えてもダメなことがたくさんあるからです。しかし、教育の過程で考えすぎてしまうクセがついてしまうと、どんどん直感が鈍ってしまいます。人生でもビジネスでも、どんなときでも、生き残る動物的な直観を持っている人は強いのです。特に人生には浮き沈みがあります。「潮の流れ」と言ってもいいかもしれません。うまくいくときはとことんうまくいく。ダメなときは何をやってもダメ。このような潮を読み、ここぞというときに勝負する人はいつの時代も強いわけです。勝負どころで迷わず、「すぐ行動できるかどうか」の直感を鍛えることで仕事やプライベートでも大きな成果を出すことができます。直観力を鍛えるための方法は様々ですが、中でも重要なものを2つご紹介しましょう。

1つは、まず経験をたくさん積むこと。「量質転化」とも言いますが、とにかくチャレンジをたくさんすることです。量が質を生むということなのですが、とにかく経験値が必要です。「下手な鉄砲、当たればラッキーかな」というような気持ちではなく、うまくいかなかったら、しっかりと改善策を考えることです。サッカーのストライカーもそうですが、ひとつひとつのチャンスにこだわり続けているからこそ、直観力が磨かれ、いざというときにカラダが自然と反応するのです。将棋の羽生善治さんは、「直感の7割は正しい」と仰っていますが、これは何もあてずっぽうからくるものではなく、思考に思考を重ね、たくさんの経験を蓄積しておくからこそ、ふとした瞬間に直感が働くのだそうです。

もうひとつは、右脳を鍛えることです。私たちの脳は左脳と右脳に分かれています。左脳は論理的な思考を司っていて、右脳は感性脳と言われ芸術的な感性を担っています。直観力を鍛えるためには、この右脳の働きを高める必要があります。子供の頃は右脳を鍛える機会も多かったのですが、大人になるとそれが難しくなってしまいます。そのひとつの原因が映像に頼るようになってしまうことです。映像は簡単でわかりやすく、想像することを求めません。子供の頃、母親に絵本の読み聞かせをしてもらった人も多いでしょう。子供たちは、物語を聞きながら頭の中で、ひとつひとつのシーンを頭に描きます。言葉や文字だけを頼りに、頭の中にイメージを描くのです。このとき右脳は活発に動き、刺激されています。小説や物語を楽しむことは想像力を必要とするので、右脳を刺激します。それは直観力を鍛えるための最高のトレーニングでもあるのです。ビジネス書にはビジネス書の良さがあ、私も読むことが大好きです。しかし、ときには直観力を鍛えるために小説を読み、頭の中にイメージを膨らませてみたいものです

スティーブ・ジョブズ氏は、何と言っていますか?

()